

里山と人の暮らしを考える ～2010年化学部夏期合宿での取り組み

池田分会 澤田 史郎

【1】はじめに

今年度、化学部夏期合宿を能勢の豊中青少年野外活動センターで「里山」をテーマにおこなった。里山と人の暮らしをつなげる「物質」を考えようということで設定したテーマであったが、里山の現状や現代社会といった問題を掘り下げる機会となった。取り組みを報告し、今回の取り組みについての評価や今後の発展方向等について議論で深めていただきたい。

【2】10年度池田高校化学部夏期合宿要項

目的 里山が人の暮らしの中でどのような役割を果たしてきたかということを学ぶ。  
実験や実習を企画し、実行する中で、化学的な考え方を深め、身につける。  
自然観察や講義を通じて里山の自然や環境について学ぶ。  
2学期以降の化学部の課題を考える、承風祭等に向けて活動の計画討議を行う。

日時 2010年7月21日(水)～7月23日(金)

行き先 能勢町宿野「豊中市立少年自然の家」及びその周辺の里山

宿泊 豊能郡能勢町宿野151-68  
豊中市立少年自然の家  
072-734-1719

実習課題

- ① 里山観察と講義(瑠璃溪資料館・南丹市園部町)  
奥村 覺 先生 瑠璃溪資料館館長
- ② 和紙について(講演)  
田口 梅屋 先生 池田高校書道科
- ③ 竹炭製作実習 豊中野外活動センター
- ④ センター内の植物による草木染め
- ⑤ バームクーヘン作り
- ⑥ 星空観察

### 【3】実施内容

IKEMISTRY創刊号 参照

### 【4】成果と課題

#### (1) 里山に対する認識の深まり

里山の多様性について 植物、動物、暮らし  
マツタケが採れる山とは  
クヌギ、コナラはなぜ里山の主なのか  
山や森が人々の暮らしの中で維持されてきたこと  
薪炭、和紙、染色、

#### (2) 里山と暮らし 化学の観点から

炭をつくる

有機化合物の性質

エネルギー問題を考える視点

草木染め

鉄媒染によるタンニン染め ものづくりのおもしろさ

文化としての視点 お歯黒や柿渋

和紙の化学と里山

世界水準の材料文化として

有機化合物

植物繊維と生物の体の仕組み

#### (3) 里山の現状について

山を維持する困難さ

生活環境の変化

杉などの植林による変化

林業、産業構造の問題

政治の課題

#### (4) 教育課題としての里山

何を問題としてとらえさせるのか。指導の視点

里山の持つ教育力

継続した取り組みとフィールドの確保